

幡多の太陽

令和2年5月25日 第5号



登校時の検温と手指の消毒をしているところです。市教育委員会から支給された検温器が便利です。おでこに照射することで、数秒でおおよその体温を測定できます。



授業風景です。人数が一番多い(12名)5・6年教室です。対面、接触を避けるために机の間隔を空けています。



給食風景です。3密を避けるため、窓も開け、以前は対面だった席を一方に向けてるとともに1席分空けています。おしゃべりもなしです。

学校での感染予防策



5月11日に学校再開が行われ、2週間が経過しました。感染者の減少に伴い、全国に出されていた緊急事態宣言が解除されました。学校においても当初の再開日が前倒しされ、学校教育活動を再開する学校も出てきました。喜ばしいことです。しかしながら、第2波、第3波の感染が心配されています。これからが正念場だと思っています。幡陽小学校では次のような予防策をとっています。今後もこれらの予防策を継続していきます。

【感染予防策】

- 1、 学校行事等の見直し
 - (1) 会合等を実施する場合は、簡素化・短縮化をし、3密にならないようにして実施する。
 - (2) 感染リスクの高い行事については、中止もしくは延期とする。
中止となった行事…家庭訪問、PTA総会、遠足、市水泳記録会など
- 2、 児童の健康状態の把握
 - (1) 登校時に児童の検温と手指消毒を行う。その際、児童の体調も観察する。
- 3、 教室等の環境
 - (1) 児童の机は間隔をなるべく空けて(1m以上)配置する。
 - (2) 授業では対面による学習やグループ活動をなるべく控える。
 - (3) 1ヶ所に集まらないようにする。
 - (4) 換気を定期的に行う。
- 4、 教室外の環境
 - (1) 児童の集会はなるべく屋外で行う。屋外でできない場合は、換気を良くし、体育館で行う。
 - (2) ランチルームの席は、隣を1席空け、対面にならないように配置する。
食べ終わったら直ちに退室する。
 - (3) 20分休みと放課後、手すりなど児童がよく触れる所を消毒する。
 - (4) 児童が密接するような理科実験・調理実習・体育の授業は行わない。
- 5、 その他
 - (1) 手洗いを徹底するとともに、消毒液を教室等に備える。マスクを必ず着用する。
 - (2) 大声で話したり、手の届く範囲に近寄らない。

今のところ、子どもたちはとても元気です。ご安心ください。このまま、コロナウイルス感染が終息を迎えてくれたら、と願うばかりです。4月に入学した1年生二人もすっかり学校生活に慣れ、幡陽小学校の一員になっています。うれしいことです。

さて、土佐清水市内の小中学校は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、4月13日から5月8日まで臨時休校措置をとりました。そのため、授業時間数が不足となりました。それを補うため、市内の小中学校では、1学期を7月31日まで、また2学期始まりを8月24日からといたしました。今年度の夏休みは、8月1日(土)～8月23日(日)となります。夏休みが短くなってしまいましたが、やむを得ない事情のためこのようなことになったことをご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

生きた防災教育

幡陽小学校では平成30年・令和元年度高知県実践的防災教育推進事業の指定校として防災教育に取り組んできました。5月11日に宮城県で地震が発生し、校内に設置している地震津波警報機が作動しました。宮城県での発生なので心配ないことを伝えようと2階の各教室に行きました。すると、サルのかっこうで机の下に避難できていました。その姿を見て、やってきたことが生かされている、すごいなあと思いました。

また、19日には岐阜県で震度4の地震が発生しました。昼休みだったのですが、外で遊んでいた児童は全員が校庭の真ん中で低い姿勢になって待機していました。2つの地震とも、遠く離れた地域での地震だったので、高知県には影響はありませんでした。このような子どもたちの姿・行動を見て、今年、幡陽小に赴任してきた宮田先生は、「自分たちで(避難行動が)できるんだ!」と、とても感心していました。「自分の命は自分で守る」そんな力がついている幡陽小学校の子どもたちです。

